

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野		事業番号、事業名				補助・単独別		補助		林務部 森林づくり推進課	
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度末進捗率	進捗状況			
1	ひるせ 広瀬 (南牧村)	谷止工 8個 谷止工(補修) 4個 床固工 3個 護岸工 333m 山腹工 0.17ha 森林整備 21.00ha (工期: H22 ~ H24)	谷止工 2個 谷止工(補修) 2個 護岸工 26m 山腹工 0.11ha	谷止工 5個 谷止工(補修) 1個 護岸工 307m 山腹工 0.06ha 森林整備 19.00ha	谷止工 5個 谷止工(補修) 1個 護岸工 307m 山腹工 0.06ha 森林整備 19.00ha	評価時 (当初) H22	55%	計画どおり進んでいる。 H22、H23に溪間工・護岸工・山腹工を実施し、H24に引 続き溪間工・護岸工・山腹工及び森林整備等を実施し、 事業を完了する。	渓流沿いの森林の 荒廃により、今後も溪 流の浸食による土砂 流出、流木被害が発 生するおそれがある ため、森林整備と溪 流施設の一体的な施 工を行うことにより溪 流の安定を図り、下 流集落等を保全する 必要がある。このた め、事業を継続し、平 成24年度での完了を 図る。	平成24年度で の完了を図る。	「継続」
		2億3505万5千円	6250万円	1億600万円	1億600万円	必要性 A	特記事項 特になし。				
						重要性 A					
						効率性 A	B/C(費用対効果)= 3.87				
2	だいみょうじん 大明神 (上田市)	山腹工 0.40ha 落石固定工 4,500 m ² 森林整備 8.00ha (工期: H22 ~ H25)	山腹工 0.08ha 落石固定工 1,840m ²	山腹工 0.12ha 落石固定工 1,200m ²	山腹工 0.08ha 落石固定工 838m ² 森林整備 8.00ha	評価時 (変更) H24	30%	計画どおり進んでいる。H22年度は全体計画調査を行 い、固定工の一部に着手。 H23年度は固定工を実施。 H24年度は引き続き固定工を実施する。	落石対策を実施した 治山事業施工地にお いて、散発的な落石 が人家、神社周辺に 及んでおり、上部斜面 には未対策の落石発 生源が点在しており、 緊急性が高いため、 事業を継続して実施 する必要がある。	落石対策の必 要性は認められ る。	「継続」
		1億6000万円	7630万円	4000万円	7200万円	必要性 B	特記事項 当該地には風化の進んだ岩塊が存在しており、直下に秋和愛宕神社、人家等がある ことから、H14年度治山事業により対策工を行っている。しかし、その後施工地外か らも落石があることから、落石危険地域への対策工を地元から強く要望されている。 H24変更 山腹工0.09ha増、落石固定工860m ² 増、事業費5,109万3千円増 ・上方の落石発生源についてシミュレーションを行った結果、放置した場合人家等に 被害を及ぼす恐れがあることが確認されたため。				
						重要性 C					
						効率性 A	B/C(費用対効果)= 2.82				
3	あおくら 大倉 (上田市)	谷止工(鋼製) 7個 水路工 60m (工期: H22 ~ H25)	谷止工(鋼製) 2 個 (H23繰越工事業 実施)		谷止工(鋼製) 2個 水路工 60m	評価時 (変更) H24	25%	計画どおり進んでいる。 H22年度は災害関連緊急治山事業で谷止工3個を実施。 H23年度は谷止工2個を実施。	平成22年8月豪雨災 害で実施した災害関 連緊急治山事業の残 工事であり、早期復 旧のため継続して事 業を実施する必要が ある。	重要性、緊急性 が認められる。	「継続」
		1億9650万円	4910万円	-円	6770万円	必要性 B	特記事項 平成22年8月豪雨に伴う災害関連緊急治山事業の残事業となる。下方集落等へ の土石流出を防ぐため、まだ不安定な土砂を補足し、安定した渓床を確保するため、 当該事業を計画するものである。 H24変更 平成22年度の災害関連緊急治山事業において、H23の豪雨、資材搬入路線の変 更、支障木の処理に時間を要したため、平成23年度復旧治山事業の着工に遅れが生 じたため、平成24年度はH23事業の繰越工事業を実施。				
						重要性 A					
						効率性 A	B/C(費用対効果)= 2.14				
					緊急性 A	住民参加状況等 特になし					

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山				補助・単独別		補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針	
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況				
4	しもよた 下仁田 (上田市)	谷止工 1個 谷止工(嵩上) 2個 (工期: H23 ~ H24)	谷止工 1個 谷止工(嵩上) 1 個	谷止工 1個 (嵩上)	谷止工 1個 (嵩上)	評価時 (変更) H24	67%	計画どおり進んでいる。 H23年度は谷止工、谷止工(嵩上)を実施。 H24年度は谷止工(嵩上)を実施し、事業を完了する。	集落に近接した治山工事施工地であるが、流域に農地を含むことから、豪雨時には土砂を伴った急激な増水がある箇所である。既設構造物を生かした水流の減勢対策を行い、下方集落の保全を図る必要があるため、事業を継続し平成24年度での完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」	
		3750万円	2500万円	1250万円	1250万円	必要性 A	特記事項 平成22年8月豪雨災により荒廃した溪流対策として、既存谷止工の嵩上や谷止工の新設等により溪流を復旧し、下方の大庭集落の保全を図る。 H24変更 既設谷止嵩上工1個増、事業費658万1千円増 ・測量調査の結果、溪流の安定のために既設谷止嵩上工1個の施工が必要となった。					
						重要性 B						
						効率性 A	B/C(費用対効果)=14.26					
					緊急性 A		住民参加状況等 下流水路の浚渫を行っている。					
5	こほらぎ 小洞沢 (岡谷市)	谷止工 2個 流路工 200m (工期: H23 ~ H26)	谷止工 1個	(H23補正繰越工事実施)	谷止工 1個 流路工 200m	評価時 (当初) H23	24%	計画どおり進んでいる。 H23年度(補正)により谷止工1個を実施。	平成23年9月の台風15号の影響等により、溪岸浸食が進行し、渓流内に不安定土砂が堆積している。今後の降雨により土砂が再移動する恐れがあることから、継続して対策を図る必要がある。	必要性、緊急性が認められる。	「継続」	
		8000万円	2000万円	-円	6000万円	必要性 A	特記事項 H24年度は、H23事業(補正)の繰越工事を実施。					
						重要性 B						
						効率性 A	B/C(費用対効果)= 4.00					
					緊急性 A		住民参加状況等 特になし					
6	みなせ 南栗平 (茅野市)	山腹工 0.65ha 落石固定工 1,150 m ² アンカー工 48本 ほか (工期: H22 ~ H24)	山腹工 0.20ha 落石固定工 900m ²	山腹工 0.17ha 落石固定工 100m ² アンカー工 20本	山腹工 0.17ha 落石固定工 100m ² アンカー工 20本	評価時 (当初) H22	82%	計画どおり進んでいる。 H22は地質調査とともに対策工の一部に着手。H23年度は落石対策を実施。H24年度は、引き続き落石対策を実施し、事業を完了する。	落石対策を目的とした治山事業施工地からの新たな落石により、下方市道通行車両等に被害が及んでおり、今後規模の大きな岩塊の剥落も想定され緊急性が高いため、継続して事業を実施し、平成24年度完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」	
		1億2600万円	9390万円	2500万円	2500万円	必要性 B	特記事項 特になし。					
						重要性 B						
						効率性 A	B/C(費用対効果)= 2.89					
					緊急性 A		住民参加状況等 特になし					

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山				補助・単独別		補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針	
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況				
19	ふじおさわ 富士尾沢	谷止工 4個 床固工 6個 山腹工 0.03ha 森林整備 25.00ha	床固工 3個	谷止工 1個	谷止工 2個 床固工 1個 森林整備 25.00ha	評価時 (当初) H21	62%	計画どおり進んでいる。 H23までに谷止工2個、床固工5個、山腹工が完了。H24は引き続き谷止工1個を実施する。	上流域からの土砂流出と渓流沿いの浸食による土砂流出に対応するため、施設整備と森林整備を組み合わせ、流域全体の防災機能を高めるよう事業を継続する必要がある。	必要性、重要性、緊急性が認められる。	「継続」	
		必要性 A				特記事項 治山事業計画地下流にて砂防事業(貯砂ダム)実施(H22~)猛禽類の観測を行いつつ、影響のないよう工事を進めている。						
		重要性 A										
		効率性 A				B/C(費用対効果)=4.98						
	[安曇野市]	1億9050万円	3930万円	2700万円	7250万円	緊急性 A	住民参加状況等 地域住民が保全対象である農業用水路及び山林の見廻りを実施している。					
20	いさかわきわ 費川沢	谷止工 5個 床固工 3個 森林整備 11.13ha	谷止工 1個 森林整備 4.00ha	谷止工 1個 森林整備 4.00ha	谷止工 1個 森林整備 4.00ha	評価時 (当初) H20	83%	計画どおり進んでいる。 H23年度までに谷止工4個、床固工3個完了。 H24年度は引き続き谷止工1個と森林整備を実施し、事業を完成する。	H18年7月豪雨により甚大な被害が発生し、砂防事業、国有林治山、民有林治山の連携により対応している。新たな崩壊の発生を抑制するための森林整備を含め、事業を継続して下流域を再度災害から保全する必要があり、平成24年度完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」	
		必要性 A				特記事項 民官連携事業の一環として国有林治山事業及び砂防事業と連携している。						
		重要性 A										
		効率性 A				B/C(費用対効果)=5.30						
	[塩尻市]	1億5580万円	3280万円	3100万円	3100万円	緊急性 A	住民参加状況等 特になし					
21	ほらまきわ 洞沢	谷止工 5個 森林整備 21.50ha	谷止工 1個 森林整備 3.73ha	谷止工 1個 森林整備 7.90ha	谷止工 2個 森林整備 10.80ha	評価時 (当初) H21	67%	計画どおり進んでいる。 H23年度までに谷止工3個と森林整備の1/2が完了。 H24年度は引き続き谷止工1個と森林整備を実施。	渓岸浸食が著しく、今後も国道に土砂が流出するおそれが大いいため、計画的に施設整備と渓畔林の整備を実施する必要があるため、継続して事業を実施する必要がある。	重要性が高く、緊急性が認められる。	「継続」	
		必要性 B				特記事項 特になし。						
		重要性 A										
		効率性 A				B/C(費用対効果)=16.20						
	[塩尻市]	1億300万円	2400万円	1900万円	5480万円	緊急性 A	住民参加状況等 地元区長や林野利用組合からの全面的協力を得て事業を実施している。また、区役員による定期的な巡視パトロールも実施している。					

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山				補助・単独別		補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針	
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況				
25	ひこま 彦沢 (池田町)	谷止工 4個 床固工 3個 流路工 340m 山腹工 0.14ha 森林整備 3.60ha (工期: H20 ~ H26)	谷止工 1個	谷止工 1個 流路工 100m 山腹工 0.14ha	谷止工 3個 流路工 190m 山腹工 0.14ha	評価時 (変更) H24	47%	彦沢本流の床固工が完了。H23.5月豪雨により被災した隣接する黒沢及び新屋敷区域を加え、総合的な山地災害対策を施工する。	旧土石流堆積物からなる溪流部は、局地的豪雨の際に土石流が発生しやすく、下流の集落、公共施設、農地に被害が及び危険が高い。 H23.5月豪雨災害により当該地域一帯で土砂流出に伴う災害が多発したため、事業を拡大して早急に土砂災害防止対策を講じる必要がある。	新たな崩壊に対する追加対策の必要性が認められる。	「拡大」	
		必要性 A				特記事項 H21変更 谷止工2個増 事業費5,800万円増 工期2年延長 H22変更 事業費70万円増 H24変更 黒沢、新屋敷区域編入、谷止工2個、山腹工0.01ha、流路工160m増、事業費6,690万円増 工期2年延長						
		重要性 A										
		効率性 A				B/C(費用対効果)=8.85						
26	おお 大なで沢 (小谷村)	谷止工 1個 流路工 110m 山腹工 1.27ha 土留工 2個 水路工 240m 伏工 4,000㎡ 暗渠工 1,090m (集水ホ-リング)	山腹工 0.20ha 土留工2個 暗渠工 540m (ホ-リング) 水路工50mほか	休止	山腹工 1.07ha 水路工190m 伏工3,000㎡ほか	評価時 (変更) H24	84%	谷止工及び山腹工の一部が完了し、H24は施工効果の確認及び今後の工事計画検討のため休止。	平成20年6月豪雨により上流で地すべりが発生し、県道に土石流が流出した。当該県道は小谷温泉に通じる唯一のルートであるため、重要性は高く、雪崩を含む溪流対策を継続する必要がある。 H24年度は休止し、施工効果の確認及び今後の工事計画を検討する。	予定工期内での完了を図る。	「休止」	
		必要性 B				特記事項 H20.6月豪雨災害 災害関連緊急治山対応箇所 H21変更 ポーリング暗渠工550m増、事業費1億7900万円増 工期3年増						
		重要性 A				H22変更 H22年融雪期の新規地すべり性崩壊が発生 山腹工0.02ha増 事業費1億2,370万円減 H24変更 工期1年増						
		効率性 A				B/C(費用対効果)=2.49						
27	まじ 馬越 (小谷村)	谷止工(高上) 1個 山腹工 0.37ha 土留工 2個 伏工 3,750㎡ (工期: H24)	谷止工(高上) 1個 山腹工 0.37ha 土留工 2個 伏工 3,750㎡	谷止工(高上) 1個 山腹工 0.37ha 土留工 2個 伏工 3,750㎡	谷止工(高上) 1個 山腹工 0.37ha 土留工 2個 伏工 3,750㎡	評価時 (当初) H24	0%	H23年度に災害関連緊急治山事業により、崩壊発生源直下の谷止工が完了し、H24年度は山腹工及び谷止工高上を実施し完了する。	H23.5月豪雨災害により保安林内で拡大崩壊が発生し国道148号線に土砂が流出し通行止となった。山腹内には多量の不安定土砂が残留し、降雨の度に土砂流出を繰り返しているため、早急に復旧工事を実施する必要がある、H24年度での完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」	
		必要性 B				特記事項 H23.5月豪雨災害 災害関連緊急治山対応箇所						
		重要性 A										
		効率性 A				B/C(費用対効果)=1.51						
		7000万円	円	7000万円	7000万円	緊急性 B		住民参加状況等 特になし				

分野	荒廃山地の復旧等の治山		事業番号、事業名	4 山地治山		補助・単独別		補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況			
28	せんごく 仙石 (長野市)	山腹工 0.44ha 土留工 3個 伏工 230㎡ 実播工 3,390㎡ (工期: H23 ~ H25)	山腹工 0.36ha 伏工 230㎡ 実播工 3,390㎡	山腹工 0.01ha 土留工 1個	山腹工 0.08ha 土留工 3個	評価時 (当初) H23	47%	H22年度に災害関連緊急治山事業により、山腹崩壊7箇所への対策を実施。H23年度は山腹崩壊2箇所を実施。H24年度は引き続き山腹崩壊2箇所の復旧を進める。	H22.7月梅雨前線豪雨災害では、崩壊地から土石流が発生し、下流の農地、市道にまで流出した。崩壊した一連の斜面は、今後の降雨により再度、同様な崩壊が発生する恐れがあるため、災害関連緊急治山事業に引き続き、早急に対応する必要がある。	重要性が高く、緊急性も認められる。	「継続」
		1億1680万円	5580万円	3180万円	6100万円	必要性 B	特記事項 H22年7月豪雨災により、下方の農地、市道が被災。災害関連緊急治山事業対応。				
						重要性 A					
						効率性 B	B/C(費用対効果)=2.39				
29	ひばにし 日原西 (長野市)	谷止工 1個 (工期: H24)		谷止工 1個	谷止工 1個	評価時 (当初) H24	0%	H23年度に災害関連緊急治山事業により、県道直上の谷止工が完了し、H24年度は崩壊発生源直下の谷止工を実施し完了する。	H23.5月豪雨災害により渓流内から土砂が流出し、県道が一時通行止となった。渓流内には未だ不安定土砂が堆積しているため、早急に復旧工を実施する必要があり、H24年度での完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」
		2500万円	円	2500万円	2500万円	必要性 B	特記事項 H23.5月豪雨災害 災害関連緊急治山対応箇所				
						重要性 A					
						効率性 A	B/C(費用対効果)=2.06				
30	いしくい 石杭 (千曲市)	山腹工 0.60ha 落石防護柵工 174m 転石破碎工 62m3 落石固定工 3,464㎡ 森林整備 4.43ha (工期: H20 ~ H25)	山腹工 0.30ha 落石防護柵工 174m 転石破碎工 62m3 落石固定工 536㎡ 森林整備 4.43ha	山腹工 0.24ha 落石固定工 2,428㎡	山腹工 0.29ha 落石固定工 2,928㎡	評価時 (変更) H23	41%	H22年度までに落石防護柵工及び森林整備が完了。H23年度は転石固定工を実施。H24年度は引き続き転石固定工を実施する。	山腹下方には県道及び人家が位置し、隣接する山腹中腹部にも新たに不安定な転石が複数存在することが判明したため、対策を追加して実施する必要がある。	予定工期内での完了を図る。	「継続」
		1億3690万円	2950万円	6780万円	8080万円	必要性 A	特記事項 H23変更 転石破碎、落石固定工の増、事業費7680万円増 計画地に隣接する山腹斜面に不安定な転石が複数存在することが判明し、対策工を追加。 H24変更 工期1年増				
						重要性 A					
						効率性 A	B/C(費用対効果)=2.87				
				緊急性 A	住民参加状況等 特になし						

分野	荒廃山地の復旧等の治山		事業番号、事業名	4 山地治山		補助・単独別		補助	林務部 森林づくり推進課							
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針					
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況								
31	あおさわ 大沢 (高山村)	谷止工(嵩上)1個 護岸工 20m 山腹工 0.40ha アンカー工 32本 土留工 456m ² 吹付工 803m ² 伏工 5,455m ² 水路工 194m 暗渠工 150m (集水ポ-リング) (工期:H22~H25)	護岸工 20m 山腹工 0.20ha 土留工 36m ² 吹付工 523m ² 伏工 1,755m ² 水路工 74m	山腹工 0.40ha 吹付工 280m ²	山腹工 0.40ha アンカー工32本 土留工 420m ² 伏工 3,700m ² 水路工 120m 暗渠工 150m (集水ポ-リング)	評価時 (変更) H24 必要性 B 重要性 A 効率性 A 緊急性 B	41% 特記事項 H23変更 流域内の既設谷止工の補修計画を追加 事業費 4,060万円増 H24変更 工期1年増	H22年度に谷止工(嵩上げ)1個を実施。H23年度は護岸工と山腹工の一部に着手。H24年度は、引き続き山腹工を実施する。	崩壊は地すべり性であり、大規模な再崩壊も想定されるため、被害抑制対策として、崩壊末端部の安定工事と崩壊地の復旧工事を継続して実施する必要がある。	予定工期内での完了を図る。	「継続」					
		1億6090万円	3000万円	2700万円	9460万円	B/C(費用対効果)=1.31 住民参加状況等 特になし	32	ななまがり 七曲 (木島平村)	山腹工 3.00ha なだれ予防柵 243m 落石固定工 8,883m ² (工期:H17~H24)	(H22補正繰越工事実施)	山腹工 0.20ha 落石固定工 2,000m ²	山腹工 0.20ha 落石固定工 2,000m ²	評価時 (変更) H21 必要性 B 重要性 A 効率性 B 緊急性 A	89% 特記事項 H21変更 落石固定工9000m ² 増、事業費2億3000万円増、工期延長2年 落石発生源の状況を調査した結果、落石対策として落石固定工が必要であるため、計画変更。 H23年度はH22事業(補正)の繰越工事を実施。	H22までになだれ予防柵が完了。H23はH22補正(繰越)事業により落石固定工を実施。H24年度は引き続き落石固定工を実施し完了する。	地形、気象、過去のなだれ及び落石災害履歴から、直下の国道になだれ及び落石の被害が及び危険性が高いため事業を継続して実施し、平成24年度完了を図る。
4億3212万円	円	5000万円	5000万円	B/C(費用対効果)=1.32 住民参加状況等 特になし	33	なかりょうがわ 中条川 (栄村)			谷止工 2個 床固工 9個 流路工 400m 山腹工 10.00ha 法切工 5,000m ³ 実播工 8,000m ² 土留工 350m (工期:H23~H26)	床固工 9個 山腹工 5.00ha 法切工 3,000m ³ 実播工 4,200m ² 土留工 200m	山腹工 5.00ha 法切工 2,000m ³ 実播工 1,580m ² 土留工 150m	谷止工 2個 流路工 400m 山腹工 5.00ha 法切工 2,000m ³ 実播工 1,580m ² 土留工 150m	評価時 (当初) H23 必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	56% 特記事項 平成23年3月12日長野県北部の地震による災害復旧工事	H23年度災害関連緊急治山事業により河道開削工、減勢工1基、谷止工1基施工済み。 H23年度(補正)により床固工4基を計画。H24年度は谷止工及び山腹工を実施する。	長野県北部の地震により、大規模な山腹崩壊が発生し、大量の崩落土砂が渓流をせき止め、湛水池が出現した。下流には集落、国道、JRなどの保全対象があることから、災害関連緊急治山事業に引き続き、早急な対策を行う必要がある。
8億1000万円	4億5000万円	1億2000万円	3億6000万円	B/C(費用対効果)=2.53 住民参加状況等 住民説明会を開催												

分野	荒廃山地の復旧等の治山		事業番号、事業名	4 山地治山		補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課			
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況			
34	ながせ 長瀬	山腹工 0.30ha 法枠工 3,116㎡ ロックボルト工1式 (工期:H23~H25) 1億6000万円	山腹工 0.20ha 法枠工 2,116㎡ ロックボルト工1式	(H23補正繰越工 事実施)	山腹工 0.10ha 法枠工 1,000㎡ ロックボルト工1式	評価時 (当初) H23	69%	H23年度(補正)により山腹工に着手している。 H24年度は、H23事業(補正)の繰越工事を実施。	平成23年3月の地震 災により山腹斜面の 一部が崩壊した。斜 面上部には旧小学校 を活用した村営住宅 の計画もあることか ら、継続して対策を 図る必要がある。	必要性、緊急性 が認められる。	「継続」
						必要性 A	特記事項 特になし。				
						重要性 B					
						効率性 A	B/C(費用対効果)=7.91				
合計	34箇所	64億3700万6千円	16億4314万5千円	12億8819万4千円	29億2430万2千円						
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				
							A:配点の75%以上 B:50%以上75%未満 C:50%未満				

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山(林地荒廃防止)				補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度末進捗率	進捗状況			
1	おもて 表 (上田市)	谷止工 2個 床固工 1個 流路工 110m	谷止工 1個	谷止工 1個	谷止工 1個 床固工 1個 流路工 110m	評価時 (当初) H22	34%	計画どおり進んでいる。 H23に谷止工1個を実施し、H24に引き続き谷止工1個を実施する。	平成22年8月豪雨により下方保全対象に土砂が流出した箇所であり、溪流沿いの浸食、崩壊が進んでおり、次期出水時に下方の保全対象に土砂流出、流木被害が発生するおそれがあるため、継続して対策工の実施が必要である。	災害復旧箇所であり、必要性は認められる。	「継続」
		(工期:H23~H25)				必要性 B	特記事項 平成22年8月豪雨災により、下方の寺院や農地へ土砂が流出した。下方の寺院や市道等の保全を図るため、溪流に残る不安定な土砂を捕捉し、安定した溪流を確保するための谷止工の設置を進める。				
		6850万円	2350万円	1700万円	4500万円	重要性 B					
						効率性 A	B/C(費用対効果)=7.76				
					緊急性 C	住民参加状況等 特になし					
2	たなか 田中 (上田市)	床固工 1個 護岸工 38m 山腹工 0.20ha 土留工 1個 実播工 430㎡ 落石固定工 380㎡	床固工 1個 護岸工 38m	山腹工 0.20ha 土留工 1個 実播工 430㎡ 落石固定工 380㎡	山腹工 0.20ha 土留工 1個 実播工 430㎡ 落石固定工 380㎡	評価時 (変更) H24	39%	計画どおり進んでいる。 H23に床固工1個、護岸工を実施し、H24に引き続き山腹工を実施し、事業を完了する。	平成22年8月豪雨により発生した溪流沿いの山腹崩壊地は集落に近接しており、今後の降雨により拡大し、重大な被害発生のおそれがあるため、継続して対策を実施し、平成24年度完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」
		(工期:H23~H24)				必要性 A	特記事項 平成22年8月豪雨災により、下方の県道へ土砂が流出した。下方の県道等の保全を図るため、崩壊地の拡大防止や、安定した溪流を確保するための山腹工や床固工等の設置を進める。				
		5400万円	2100万円	3300万円	3300万円	重要性 A	H24変更 山腹工種の変更 ・測量調査の結果、山腹斜面の安定のために法枠工の施工が必要となった。				
						効率性 A	B/C(費用対効果)=18.22				
					緊急性 B	住民参加状況等 特になし					
3	しもはなが 下半過 (上田市)	谷止工 7個 床固工 6個 森林整備 10.50ha	谷止工 2個 床固工 1個 森林整備 1.00ha	床固工 4個	谷止工 1個 床固工 4個 森林整備 7.00ha	評価時 (変更) H24	65%	H23年度までに溪間工13個中8個完了。H24年度は床固止工4個を実施。	施設整備と森林整備を組み合わせた効果的な計画であり、地域の防災意識を高める等、減災効果が高いため、事業を継続して実施する必要がある。	重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。	「継続」
		(工期:H21~H26)				必要性 A	特記事項 ハード・ソフト対策の両面から減災効果を高めることを目的に、住民を対象とした「災害につよい森林づくり」に係る説明会、森林整備現地学習会を開催し、地域ぐるみで森林整備への取組みを通じて自主防災意識の向上につなげる計画である。				
		1億1985万円	3500万円	2000万円	4200万円	重要性 A	H24変更 谷止工3個増、事業費5,713万8千円増 ・平成22年7月豪雨により、溪流の荒廃が進行し、追加で対応が必要となった。				
						効率性 B	B/C(費用対効果)=15.81				
					緊急性 A	住民参加状況等 特になし					

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山(林地荒廃防止)			補助・単独別		補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況			
4	おおまつお 大松尾 (上田市)	山腹工 0.45ha 土留工5個 水路工120m 伏工 4,100㎡ (工期:H24) 6788万円	円	3200万円	3200万円	評価時 (当初) H24	0%	H22年度に災害関連緊急治山事業により、山腹基礎工が完了し、H24年度は残りの山腹緑化工を実施し、事業を完了する。	平成22年8月豪雨災害で実施した災害関連緊急治山事業の残工事であり、早期復旧のため継続して事業を実施し、平成24年度の完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」
						必要性 C	特記事項 平成22年8月豪雨災により、下方の県道へ土砂が流出し、災害の当年度は災害関連緊急治山事業で対応した。続くフォロー対策として下方の県道等の保全を図るため、崩壊地の拡大防止のための山腹工を進める。 平成23年度は、平成22年度の繰越工事を実施。				
						重要性 A					
						効率性 B	B/C(費用対効果)= 2.21				
						緊急性 B	住民参加状況等 特になし				
5	あけだおし 明通 (青木村)	谷止工 8個 床固工 4個 山腹工 0.05ha 土留工 1個 ほか (工期:H23～H26) 1億4500万円	谷止工 3個	谷止工 1個 床固工 4個	谷止工 5個 床固工 4個 山腹工 0.05ha 土留工 1個 ほか 1億600万円	評価時 (変更) H24	27%	計画どおり進んでいる。 H23年度は谷止工4個を実施し、H24年度は引続き谷止工1個、床固工4個を実施。	平成22年7月豪雨災害で実施した災害関連緊急治山事業の残工事であり、早期復旧のため継続して事業を実施する必要がある。	新たな崩壊に対する追加対策も必要性が認められる。	「拡大」
						必要性 A	特記事項 平成22年7月豪雨災及び平成23年7月豪雨災により、下方の国道へ土砂が流出し、災害の当年度は災害関連緊急治山事業で対応した。続くフォロー対策として下方の国道143号及び弘法集落の保全を図るため、谷止工の設置と山腹崩壊地の復旧を進める。 H24変更 谷止工2個増、事業費6,954万円増 平成23年7月豪雨により、新たな渓流で土石流災害があり、追加で対応が必要となった。				
						重要性 A					
						効率性 B	B/C(費用対効果)= 7.18				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし				
6	しげのぼろ 下飯沼沢 (辰野町)	谷止工 3個 床固工 6個 山腹工 0.15ha 緑化工 1,500㎡ 流路工 69m (工期:H20～H24) 9755万円	床固工 2個 流路工 29m	山腹工 0.15ha 緑化工 1,500㎡	山腹工 0.15ha 緑化工 1,500㎡	評価時 (変更) H22	95%	平成23年度までに治山ダム工、流路工を設置してきた。本年度は渓流周辺の緑化及び森林整備を実施して当該地区の概成を目指す。	平成18年7月豪雨により土砂が流出した集落背後の扇状地における土砂流出抑止対策であり、事業を継続し、H24年度での完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」
						必要性 A	特記事項 平成18年7月豪雨災により溪岸が侵食され土砂が県道まで流出した。 H22変更 事業費 10,000千円増 工期2年延長 下流工法見直し(流路工を床固工、護岸工へ)				
						重要性 A					
						効率性 A	B/C(費用対効果)= 4.90				
						緊急性 A	住民参加状況等 地元住民による豪雨時の応急対策を行ったり、流域の見回りや水路整備などを積極的に行っている。				

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山(林地荒廃防止)				補助・単独別		補助	林務部 森林づくり推進課			
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針		
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況					
7	まゐら 猿庫 (飯田市)	谷止工 2個 山腹工 0.08ha 落石固定工 470㎡ 水路工 19m (工期:H23~H24) 5195万8千円	谷止工 1個	山腹工 0.08ha 落石固定工 470㎡ 水路工 19m	谷止工 1個 山腹工 0.08ha 落石固定工 470㎡ 水路工 19m	評価時 (当初) H23	64%	計画どおり進んでいる。 H23年度は谷止工1個を実施し、H24年度は 谷止工1個、山腹工を実施し、事業を完了す る。	多くの来訪者が訪れ る「猿庫の泉」上流の 山腹が崩壊し、渓流内 には不安定土砂が堆 積しており、次期出水 期に被害を及ぼすお それがあるため、継続 して事業を実施し、平 成24年度完了を図る。	平成24年度での完 了を図る。	「継続」		
												必要性 B	特記事項 名水100選に選ばれている猿倉の泉の直上部であり、下流には 飯田市の水道取水施設もあり、地域はもとより観光客からも事業 の要望は強い。
												重要性 B	
												効率性 A	
緊急性 B	住民参加状況等 工事の実施について、積極的な協力がなされている。												
8	ほうぜんじ 法全寺 (飯田市)	山腹工 0.40ha 暗渠工(ホーリング) 160m アンカー工 69本 (工期:H23~H24) 1億909万円	山腹工 0.40ha 暗渠工(ホーリン グ) 160m	山腹工 0.40ha アンカー工 69本	山腹工 0.40ha アンカー工 69本	評価時 (変更) H24	17%	H23年度に山腹工に着手し、H24年度は引 続き山腹工及びアンカー工を実施し、事業を 完了する。	河川に面した山腹斜 面の地すべり性崩壊 であり、移動土塊が河 川を閉塞した場合、下 流集落への重大な被 害が想定されるため、 継続して事業を実施 し、平成24年度完了を 図る。	新たな崩壊に対す る追加対策の必要性 が認められる。 平成24年度での完 了を図る。	「拡大」		
												必要性 C	特記事項 H24変更:調査の結果、表層崩壊の他に地すべり性の崩壊であ ることが判明したため、事業計画を一部変更(アンカー工を追加) した。 事業費83,290千円増
												重要性 B	
												効率性 A	
緊急性 A	住民参加状況等 土地所有者の立会いや、地元区長等と現地調査を実施。												
9	ふくしま 福島 (豊丘村)	谷止工 1個 山腹工 0.04ha 土留工 1個 暗渠工 10m 水路工 60m (工期:H23~H24) 6850万円	谷止工 1個	山腹工 0.04ha 土留工 1個 暗渠工 10m 水路工 60m	山腹工 0.04ha 土留工 1個 暗渠工 10m 水路工 60m	評価時 (当初) H23	77%	H23年度に谷止工1個完了し、H24年度は山 腹工を実施し、事業を完了する。	地域生活にとって重 要な村道上部の地す べり性崩壊であり、渓 流内に堆積した不安 定土砂が次期出水期 に村道へ流出する恐 れが高いことから、事 業を継続し、平成24年 度完了を図る。	平成24年度での完 了を図る。	「継続」		
												必要性 B	特記事項 特になし
												重要性 A	
												効率性 A	
緊急性 A	住民参加状況等 特になし												

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山(林地荒廃防止)				補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況			
13	とがわ 戸川 (筑北村)	谷止工 4個	谷止工 2個	谷止工 1個	谷止工 2個	評価時 (当初) H24	36%	H22年度に災害関連緊急治山事業により、 谷止工3個を実施。H23年度に谷止工2個を 実施し、H24年度は谷止工1個を実施する。	平成22年7月豪雨災 害で実施した災害関 連緊急治山事業の残 工事であり、早期復旧 のため継続して事業を 実施する必要がある。	必要性、重要性が 認められる。	「継続」
		(工期:H23~H25)				必要性 A					
		5500万円	2000万円	1700万円	3500万円	重要性 A					
						効率性 A	B/C(費用対効果)= 3.55				
緊急性 B	住民参加状況等 特になし										
14	おだつ 小立野 (生坂村)	谷止工 4個 床固工 1個 護岸工 29m 山腹工 0.02ha 伏工 116㎡ 森林整備 0.80ha	(H22繰越工事を 実施)	護岸工 29m 山腹工 0.02ha 伏工 116㎡ 森林整備 0.80ha	護岸工 29m 山腹工 0.02ha 伏工 116㎡ 森林整備 0.80ha	評価時 (当初) H22	70%	計画どおり進んでいる。 H22年度(補正)により谷止工4個、床固工が 完了し、H24年度に護岸工、山腹工、森林整 備を実施し、事業を完了する。	浸食の進行、溪畔部 分森林の荒廃により、 局地的な豪雨の際に は流木を伴う災害が 発生するおそれがあ るため、森林整備と施 設を一体的に実施す る必要がある。このた め、継続して事業を実 施し、平成24年度完了 を図る。	平成24年度での完 了を図る。	「継続」
		(工期:H22~H24)	必要性 A	特記事項 H23年度はH22事業の繰越工事を実施。							
		8400万円	円		638万8千円	638万8千円	重要性 A				
							効率性 A	B/C(費用対効果)= 7.55			
緊急性 A	住民参加状況等 特になし										
15	さみず 三水 (長野市)	谷止工 5個 山腹工 0.30ha 土留工 4個 伏工 600㎡	谷止工 2個	谷止工 2個	谷止工 5個 山腹工 0.30ha 土留工 4個 伏工 600㎡	評価時 (当初) H24	0%	H22年度に災害関連緊急治山事業により谷 止工3個を実施。H24年度は谷止工2基を実 施する。	平成22年7月豪雨災 害で実施した災害関 連緊急治山事業の残 工事であり、早期復旧 のため継続して事業を 実施する必要がある。	重要性が高い。	「継続」
		(工期:H24~H26)			必要性 C	特記事項 H22.7月豪雨災害 災害関連緊急治山対応箇所 H23年度は、H22災害関連緊急治山事業の繰越工事を実施					
		1億3200万円	円	5700万円	1億3200万円		重要性 A				
							効率性 B	B/C(費用対効果)= 3.38			
緊急性 B	住民参加状況等 特になし										

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野	荒廃山地の復旧等の治山	事業番号、事業名	4 山地治山(林地荒廃防止)			補助・単独別		補助	林務部 森林づくり推進課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況			
16	いまいづみ 今泉 (長野市)	山腹工 1.50ha 土留工 8個 伏工 5,000㎡ [工期:H24~H26] 6100万円	円	2500万円	6100万円	評価時 (当初) H23	0%	H22年度に災害関連緊急治山事業により谷止工3個を実施。H24年度は山腹工0.20haを実施する。	平成22年7月豪雨災害で実施した災害関連緊急治山事業の残工事であり、早期復旧のため継続して事業を実施する必要がある。	重要性が高い。	「継続」
						必要性 B	特記事項 H22.7月豪雨災害 災害関連緊急治山対応箇所 H23年度は、H22災害関連緊急治山事業の繰越工事を実施				
						重要性 A					
						効率性 B	B/C(費用対効果)= 1.12				
						緊急性 B	住民参加状況等 特になし				
17	しらとり 白鳥 (栄村)	山腹工 0.50ha 法枠工 3,000㎡ 護岸工 890㎡ [工期:H24~H26] 1億5000万円	円	5200万円	1億5000万円	評価時 (当初) H24	0%	H23年度に災害関連緊急治山事業により右岸側の山腹工を実施。H24年度は引き続き左岸側の山腹工に着手する。	平成23年3月地震災害で実施した災害関連緊急治山事業の残工事であり、早期復旧のため継続して事業を実施する必要がある。	地震災害箇所であり、必要性は認められる。	「継続」
						必要性 B	特記事項 H23.3月地震災害 災害関連緊急治山対応箇所 H23年度は、H23災害関連緊急治山事業を実施				
						重要性 B					
						効率性 A	B/C(費用対効果)= 2.73				
						緊急性 B	住民参加状況等 特になし				
18	たかまち 高町 (栄村)	山腹工 0.30ha 実播工 2,000㎡ 伏工 810㎡ [工期:H24] 3000万円	円	3000万円	3000万円	評価時 (当初) H24	0%	H23年度に災害関連緊急治山事業により山腹基礎工を実施。H24年度は引き続き山腹緑化工を実施し、事業を完了する。	平成23年3月地震災害で実施した災害関連緊急治山事業の残工事であり、早期復旧のため継続して事業を実施し、平成24年度完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」
						必要性 B	特記事項 H23.3月地震災害 災害関連緊急治山対応箇所 H23年度は、H23災害関連緊急治山事業を実施				
						重要性 B					
						効率性 A	B/C(費用対効果)= 2.46				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし				

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野		事業番号、事業名				補助・単独別		補助			
荒廃山地の復旧等の治山		4 山地治山(林地荒廃防止)						林務部 森林づくり推進課			
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況			
合計	18箇所	13億8522万8千円	2億7475万8千円	5億958万8千円	8億7458万8千円		A: 配点の75%以上 B: 50%以上75%未満 C: 50%未満				

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野	荒廃山地の復旧等の治山		事業番号、事業名	4 山地治山(地域防災対策総合治山)		補助・単独別	補助	林務部 森林づくり推進課			
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況			
1	よみかき 読書	谷止工 4個 山腹工 1.05ha 土留工 3個 伏工 2,500㎡ ほか 森林整備 23.29ha (工期:H21~H25)	谷止工 1個 山腹工 0.08ha	谷止工 1個 山腹工 0.31ha 土留工 3個 伏工 2,500㎡ ほか	谷止工 1個 山腹工 0.73ha 土留工 3個 伏工 2,500㎡ ほか 森林整備 23.29ha	評価時 (当初) H21	56%	計画どおり進んでいる。 平成21年度に、北沢支溪の対策工事が完了し、平成23年度には蛇抜沢の対策工の約半分が完了した。	過去の災害で多数の崩壊が発生した流域において、これまでの治山工事により復旧された森林を、防災機能の高い森林に誘導する森林整備や、既存施設の嵩上げ等により土砂流出防止を図る計画であるため事業を継続する必要がある。	重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。	「継続」
		(南木曾町)	3億1030万円	7860万円	5700万円	1億3170万円	必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	特記事項 昭和40年代に大規模災害が発生し、40世帯が全壊・流出した経過がある。既設の治山施設により、渓岸侵食の抑制効果は一定の効果が見られるものの、近年、斜面崩壊が各所に発生しており、平成18年豪雨の際、大規模な崩壊が発生した。現在も不安定土石が堆積しており、今後の豪雨等により流出する恐れがある。多治見国道砂防事務所が砂防施設(貯砂池)を計画しており連携を図っている。 B/C(費用対効果)=11.17 住民参加状況等 計画樹立時及び、工事開始前に地権者に対し説明会を実施。情報共有と土地借用などの協力体制を確保している。			
2	やしろ 社	谷止工 4個 山腹工 0.89ha 流路工 360m 護岸工 172m 森林整備 18.10ha (工期:H19~H24)	山腹工 0.42ha 森林整備 3.20ha 溪畔林整備施設 100m	森林整備 3.27ha 簡易治山施設一式	森林整備 3.27ha 簡易治山施設一式	評価時 (変更) H23	92%	谷止工、山腹工、流路工、護岸工が完了し、神明沢流域の溪畔林整備施設を施工し事業を完了する。	H16年台風23号災により人家・基幹道路が被害を受けた地域であり、H19年災害によりさらに荒廃が進行して流木災害が発生するおそれがあるため、溪畔森林の整備を含めた溪流工事を継続して実施する必要がある、H24年度での完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」
		(大町市)	5億1000万円	4370万円	4300万円	4300万円	必要性 B 重要性 A 効率性 A 緊急性 B	特記事項 H16.10月台風23号災 災害関連緊急治山事業対応箇所 H21変更 谷止工1個減、溪畔林整備の優先 工期1年延長 H22変更 谷止工8個減、事業費2億596万9千円減 H23変更 猛禽類保全対策検討のため工期1年延長、事業費精査6800万円増 B/C(費用対効果)= 6.15 住民参加状況等 事業実施時に地権者が来現し、進捗確認をしたり工事に対する要望が出されている。また、施工後の施設内の流木撤去などの維持管理を行っている。			
合計	2箇所	8億2030万円	1億2230万円	1億円	1億7470万円			A: 配点の75%以上 B: 50%以上75%未満 C: 50%未満			